

会 議 録

| | | |
|--------------|-------|---|
| 会議名 | | 第3回阿波市子ども・子育て会議 |
| 事務局 (担当課) | | 健康福祉部子育て支援課 ☎0883-36-6813 |
| 開催日時 | | 平成25年11月20日(水) 午後1時00分～午後3時00分 |
| 開催場所 | | 阿波市市場住民センター |
| 出席者 | 委員 | 20名(うち1名欠席) |
| | 行政関係者 | 教育部局 4名 / 福祉部局 2名 |
| | 事務局 | 4名(子育て支援課、委託業者) |
| 議事次第 | | <p>◎議事進行 安田会長</p> <p>1 開会 中津副会長</p> <p>2 会長あいさつ 安田会長</p> <p>3 議事</p> <p>1. 次世代育成支援行動計画(現行の子育て支援計画)の現状について</p> <p>☆プラン3 保育サービスの向上</p> <p>(6) 民間活力導入の推進</p> <p>・ ・ 資料 (冊子P19)(資料P26～27)(別添)</p> <p>(7) 幼保一元化に向けた取り組みの推進</p> <p>・ ・ 資料 (冊子P19)(資料P28～32)(別添)</p> <p>認定こども園について(別紙)</p> <p>☆プラン4 子育てと仕事の両立支援の推進</p> <p>(8) ファミリー・サポート・センターの設置</p> <p>・ ・ 資料 (冊子P20・P28)(資料P13)</p> <p>(9) 病児・病後児保育事業の推進</p> <p>・ ・ 資料 (冊子P20・P33)(別添)</p> <p>2. ニーズ調査表について</p> <p>3. 質疑応答</p> <p>4. その他</p> <p>4 閉会 中津副会長</p> |

はじめに

中津副会長からの開会の後、安田会長からあいさつを行い、業務の委託業者の紹介および委託業者の会議出席の承認を得た。

審議概要 (◎は会長 ○委員 ●行政関係者 ▲事務局の発言等)

(6) 民間活力導入の推進

◎安田：それでは、議事の(6)に入ります。本日の議事は第2回会議に引き続き、次世代育成支援行動計画の現状について、プラン3、プラン4を審議させていただきます。

プラン3の民間活力導入の推進について、事務局より説明をお願いします。

▲寺井：保育所指定管理者導入概要、指定管理者制度の概要、保育所への導入経緯、久勝保育所における指定管理の状況、各保育所におけるアンケート結果から各種サービスの状況等について、資料に基づき説明を行った。

(要点)

「指定管理者制度が創設され、阿波市では平成25年4月から久勝保育所で指定管理者制度を導入している。保護者のアンケート結果からは、指定管理者制度を導入している久勝保育所に対してはおおむね好評を得ている。民間活力導入により、公と民で違う点としてサービスの向上があげられるが、アンケート結果を見ても、早朝保育、土曜保育、乳児保育、休日保育等でサービスの向上に伴って、希望者のニーズがあがっているのではないかと考えられます。

◎安田：ただいま、事務局より説明がありましたが、今のところでご意見は

ありますか。

○各委員：ここまでは特に意見が無いため、次の議題に進んだ。

(7) 幼保一元化に向けた取り組みの推進

◎安田：それでは、議事の(7)について、事務局より説明をお願いします。

▲寺井：幼保の取り組みの現状、今後の市の方向性案等について説明を行った。また、委託業者から認定こども園の概要について説明を行った。

(要点) 現在、幼保の取り組みについては、施設整備を八幡地区、一条地区で先駆けて行っている。また、施設整備基本計画でも将来的な幼保の連携施設で認定こども園に向けて方向をつける、としている。本日、事務局からは幼保連携型施策に向けた考え方について、あくまで案であるが、国の制度と施設整備の状況に合わせた方向性案として、審議していただきたい項目を提出しています。

◎安田：ただいま、事務局より説明がありましたが、今のところのご意見はありますか。今後はすべて認定こども園に全部しなさいという方向性なのか？いずれはしなさいという方向性なのか？

▲委託業者：すべてを認定こども園に、というのは各地域・施設の現状や保護者の意向等もあり難しいかもしれない。あくまで国は取り組みやすくして推進しているというのが実情ではないかと思うと説明。

◎安田：阿波市としてはどのような方向性にしていけばよいのか？

▲寺井：先ほど阿波市の保育・教育並びに子育て支援の方向性(案)として

説明したが、すべて就学前の児童にとって連続して切れ目のない支援として、認定こども園が理想的なものとしてあると思う。そのため、阿波市においても施設整備していく方向が良いと思うが、すべての既存施設で進めるには無理が生じるため、現在、施設整備にすでに取り組んでいるところから認定こども園を進めていくことが良いのではと、事務局では考えている。方向性をご審議いただければと思います。

◎安田：何か意見はありますか？

●藤本教育次長：補足ですが、いわゆる保育所と幼稚園が合体したもの。これまでは保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省で分かれていたが、認定こども園は、それを内閣府で一本化しようとするもの。0歳から5歳まで一貫して保育・教育を連続的にやりましょう、というもの。そして、これまでは保育所指針、幼稚園教育要領がそれぞれにあったが、認定こども園要領ということで、新しい方針のもとで実施しようとするもの。それから保育所、幼稚園は預かる時間などが違っていたが、このサービスの中身も一本化しようというもの。当然、教育という意味では小学校教育に繋げるようになるもの、となる。また、阿波市では幼保連携型が進められているという話だが、それについては認定こども園を進めやすいが、それ以外は従来の保育所や幼稚園が残らざるを得ない、というのが現状です。

○坂東（進）：小学校の立場からの認定こども園の方向性についてのお願いが、今、小学校では小1プロブレムと言われ、子どもが授業中に立ち歩いた

りといった問題がある。その原因が何かと思うと、ヨーロッパの幼稚園では15~16人を1人がみており適正な規模だと思うが、日本の幼稚園では35人までの子どもを1人でみる。小学校への繋ぎ目という意味では、発達段階で適性な配置人数をする必要がある。これを市の中で加配とか、ひとりが受け持つ園児数を適性にみていける規模に少しでも近づけてもらえればと思います。

◎安田：指針の中で、認定こども園の先生が受け持つ人数は出ているのですか。これは市で自由が利くものですか？

●藤本教育次長：国の指針はあるが、あとは施策として阿波市で人を投入して手厚い支援をするかどうかだが、お金がかかる問題でもあります。

▲寺井：国では幼保連携型認定こども園の認可基準があって、今の現行の保育所についても0歳児は3人に1人、1~2歳児6人に1人、3歳児は20人に1人、4~5歳児は30人に1人。幼稚園は4時間の短時間利用では35人に1人。長時間では30人に1人という基準がある。これも国の方で議論がされる中で幼稚園は35人以下という方針案が出ているようです。この基準を下回ることは出来ないが上回ることは出来ます。

◎安田：予算も限られるわけですね。最近、支援も必要な子も増えたという中で、長年の経験から近藤委員どうですか。

○近藤（真）：今現在は、市の教育委員会の配慮で30人を超えたら加配してくれている。ここ2~3年は手厚いように思う。それと特別支援の必要な子ども

は、市とも連携して対応して、小学校につなげるために相談もしています。

◎安田：保育所の方はどうですか。

○伊澤：昔は十分に保育することができたが、今現実には無理になっている。特別な保育が要る子どもには市と相談して加配してもらっている。十分に支援できていると思うが、保健師さんや子育て支援課などとも連携して対応しています。

◎安田：支援が必要な子どもは、増えている実感はありますか。

○伊澤：増えているかはわからないが、昔よりもはっきりと分かり出してきたと専門の先生も言っていました。昔はグレイとされていた子どもが、今は特別支援といったような形で必要になってきた、と聞いています。

◎安田：他ご意見は。

○平木：先生は足りないと思います。

○中津：話は変わるかもしれないが、坂東委員の先ほどの意見については教育・保育の質みたいなものをどうあげるかという事も大事と思う。それから保育所の低年齢化と親の就労が増えて長時間預かるようになり、小さい時から預けられるということがどういう影響を与えるかの文献はあまりない。預けられることが本当に子どもにとって良いのか、わからない。やはり教育・保育の質を上げることも大事となる。親の問題が発達支援に様々影響出ているようにも思う。そこで提案ですが、認定こども園には、小学校のようにスクールカウンセラーを置いてはどうか、と思う。」

○藤川：良い提案だと思う。加配の人数が増えても質が上がるかは難しいと思う。人数だけではないと思います。

○原田：相談したいこともどこに相談したらよいかわからない、ということがあります。

◎安田：ヤクルトの企業内保育所さんは、午前中だけとか、その中で保育所の先生がお母さん方の相談をされているますか

○板東：そうですね。カウンセラーは小学校に配置されているのですか？

○坂東(進)：中学校区のカウンセラーが小学校にも来ているという状況です。

○板東：認定こども園になれば助成が増えて、保育料も高くなるのではないかと。そこら辺が気になります。

◎安田：お金の話も、まだこれから決めることになりますか？

▲寺井：認定こども園に向けて動くとなれば、いろいろ検討することになるが、その中で保育料の設定についても、認定こども園の保育料の階層が出来ることになると思う。しかし大きく高くなったり、低くなったりは考えにくい。基本的には所得の制限枠の中で年齢階層に応じたの設定になるかと思えます。

◎安田：方向性を、認定こども園の設置に向けようということをこの会議で決めなければならないのか？

▲寺井：事業計画としては、認定こども園の設置だとか、具体的なことを決めていきたいと思うので、この議論で決めていけたらと思います。

●藤本教育次長：先ほど、保育や教育の質の話から、カウンセラー的なものを置いたらどうかという意見、また、子育ての悩みをどこに相談したらよいかわからないという話が出た。つまり、認定こども園にはもっといろんな機能があったら良いと。そこで地域の活力を導入していけたらという話も事務局より提案があった。委員長も久勝小に入っているわけで、ボランティアとか、地域の人々の長年の知恵だとかをプラスアルファにして悩み相談などの機能を高めることも良いのでは、というようなことを感じました。

◎安田：いろいろな要望を足していって独自の方向で良いものにしたらどうかという意見ですが、皆さん他にどうでしょう。

○近藤：認定こども園にしようという方向性になれば、市内全部に適用するのか？

▲寺井：認定こども園について、その方向性は理解できると、ただしすべてに適用するか、というところですね。たしかに各小学校区に1つずつできれば理想だが、しかし財源と職員の問題がある。全国的に保育士や幼稚園教諭の確保が難しい。その中で、指定管理制度や民間移管などを活用することも検討しなければならない。今言えることは、旧町で言うと阿波町以外にはできると思う。その問題と指定管理を導入することで、保護者の状況も見ながら、民間導入と認定こども園と既存の市施設をどうするか、という3つの柱をどうするか、というところです。

○近藤：保育所、幼稚園、認定こども園が平均的にあれば良いのでは。

○中津：ニーズはバラバラなので、全部を認定こども園にしなくともよいのでは。それぞれで良いと思うが。

○松本：少子化が進む中で、少しでも改善しようとする形が認定こども園だと思う。基本的に広域化して集約化されたものだと思う。そうすると送迎の問題も出てくるのではないか。保育・教育の質を担保するには、その問題点にどう対処するかが課題では。阿波市はなぜか肥満の子どもが多い。集約化されるとなると、家から遠いところに車で送迎するなどの影響も出るのでは。

▲寺井：確かに、一条保育所と吉野保育所の幼保連携施設を建てているが1.5キロほど離れており、スクールバスを走らしてほしいという要望もあった。現実スクールバスは困難であると説明はしている。少子化に拍車がかかると広域化も否めないが。また、幼保小の連携という意味では小学校の統廃合に合わせたものでもあるかと思う。今は阿波町の保育所バスも利用者が少なくなっている。現状ではバスを走らす時間帯が保護者の利用時間帯に合わないということもあるためと考えられます。

◎安田：次の議題もあるので、そろそろまとめていきたいが。

▲寺井：民間活力について、もう少し委員さんのご意見を伺いたいです。

○河野：久勝保育所だけで、英語やプールなど、いろんなカリキュラムがあるので、他でもやった方がよいのではないか。

○清水：保育の中身については難しいが、すべて同じことが良い面もあるし、逆に不平等が良いことかもしれない。

○河野：指定管理になって、保育料は一緒ですか？

▲寺井：同じです。市の保育料です。

○黒田：今の家族は多様化しているので、認定こども園を設置してくれるのであれば、経済状況や共働世代も増えているし、幅広くいろんなニーズや視点をふまえて考えていただければ。

○中津：親の就労形態も確かに増えているのはそうだと思うが、個々に見ていかないといけない部分もある。

○黒田：個別支援も必要だろうし、社会全体から見た認定こども園も大事だろうし、地域の活力を活かして、柔軟に対応できる窓口も必要。今はプラットフォームも重要視されているが、阿波市の施策として、そのあたりも明確化していく時期なのかなと思う。

○近藤（真）：発達内容に必要なことは、この年齢までに、ここまでは育てておきたい、というような段階がある。大事なのは質。私たち教師としての資質向上も必要。だから教育の中身でないかと思う。ここの幼稚園はこういう支援、ここの保育所はこういう支援、というような市の中でいろんな施設があって良いと思う。今は遊んでいない子が小学校で授業中に遊んでしまう。遊んでいない子が小1プロブレムのようになる。だから幼稚園では遊ばせている。昔は幼稚園で遊ばせなかった。今は家で遊んでいない。これは持論だが、もっと広い視野であって良いと思う。

▲寺井：民間活力について、これから第2の民間活力の導入を進めることに

賛成かどうか、委員の皆さんの賛成かどうかを挙手でお願いしたい。

◎安田：委員の皆さん、賛成を挙手でお願いしたい。

▲寺井：過半数は超えているようです。ありがとうございました。

(8) ファミリー・サポート・センターの設置

(9) 病児・病後児保育事業の推進

◎安田：それでは、次に議事のプラン4の

(8) ファミリー・サポート・センターの設置について

(9) 病児・病後児保育事業の推進について、事務局より説明をお願いします。

▲寺井：ファミリー・サポート・センターについては、平成22年に設置し、平成23年から援助活動を実施している。昨年度の平成24年度末には566件の援助活動で、これが平成25年11月7日現在で592件の援助活動件数がある。登録人数も平成23年は93件、平成25年現在288名でとなっており、年次で伸びを示しており、活動についても活発化してきている。

病児病後児保育については、県内の病児病後児保育施設を資料にしている。部会で3回ほど検討委員会を実施している。3回目に部会長に提言をまとめていただいております。内容は、病児病後児保育に取り組むこととしている。ただしそのやり方のパターンが4パターンほどあるが、部会の中では医療機関の併設型ということで意見が固まりつつある。また、県内でこの支援が無いのは、別添資料の通り、阿波市と三好市だけとなっている。病児病後児保育

については次回の会議の中で提言として審議していく予定である。もしご意見があれば部会に持ち帰り、提言に加えたいと思います。

◎安田：委員の皆さん、何か要望やご意見はありますか。

○井内：核家族化が進み、両親が働きに出ている状況で、阿波市にだけないということであれば、こういう支援があれば安心して働けるのではないか」

○清水：伝染病が流行ると、もし自分が治って学校行くと、他の子にうつって学級閉鎖で、また学校を休まないといけない、ということがある。そういう時に学べる場所ってないものか。

○坂東（進）：学校は教育の場であって福祉の場ではないので。ただ、学習が足りない場合は長期休暇に勉強することはあると思う。」

○近藤（真）：ファミサポがもう少し安かったら良いと思います。

○河野：1日だとかなり高くなる。もう少しどうかならないかと思う。

▲寺井：値段設定は、県下でのネットワーク委託なので、一律の整合性がある。

○河野：市の方で補助などしてもらえたら。払う方からすると高い、と思う。

○中津：ファミサポで預かって事故とかないのか。

▲寺井：阿波市ではない。他市では事故の事例も聞いたことがある。現在は提供側に小児医療等の講習を受けてもらって、預かってもらう体制づくりには努めています。

○中津：事故があったときの保険は。

▲寺井：保険はかけています。

○中津：実人数は。どのくらいの人が使っているのか。

▲寺井：人数は今把握していないが、ひとりの人が 20 日くらい利用しているというケースが多い。延べ日数は多いが、実人員は少ないと思う。

◎安田：病児保育の方はどうですか。

○伊澤：38 度くらいの熱なら預かるが、38 度を超えると預かる側も怖いので、迎えに来てもらう。

◎安田：今、併設型で検討しているという事だが。

▲寺井：病児病後児保育の道筋がたったら、市内の小児科のある病院にアプローチすることになると思います。

○河野：逆に、子どもが病気の時に、その就労の手当てを見てもらうとか補助してくれたら安心だが。

○近藤（真）：育児休暇取りやすい企業があればよいが。

○近藤：ファミサポは基本 1 対 1 か？

▲寺井：基本は 1 対 1 ですが、ご兄弟なら半額とかで 1 対 2 等になる場合もあります。

◎安田：お時間が来たので、議題の方はこの辺で置いておいて、次の議題を進めたい。

つづいて、ニーズ調査表の資料に基づき、説明を行った。

▲寺井：0歳から3年生までの調査になる。学校にも、保育所・幼稚園にも配布協力を行っている。項目内容についてはこちらで進めたい。配布は12月5日～16日までとしているが、できるだけ回収できるよう、皆様からも呼びかけをお願いしたい。

◎安田：よりたくさん回収があれば充実と思うので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

3. 質疑応答 特になし

4. その他 次回の会議日程を決めた

○次回は1月16日（木）午後1:30～3:30で第4回目会議を実施。

◎安田：それでは、本会の閉会を、副会長の中津委員さんをお願いします。

○中津：第3回阿波市子ども・子育て会議を閉じることにします。皆さんありがとうございました。と閉会を告げた。